

JAPIC NEWS



Contents

一般財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC**
Japan Pharmaceutical Information Center

巻頭言

日本医薬品産業を「ものづくり」で世界へ

協和発酵キリン株式会社 代表取締役社長 花井 陳雄 2

トピックス

JAPICサービスの紹介

生物由来製品の感染症情報提供サービス 4

コラム

最近の話題「漢方とは何か？」

日本漢方生薬製剤協会 広報委員長 中島 実 6

薬剤師の現場「情報化社会におけるかかりつけ薬局の役割」

株式会社健康第一調剤薬局 みんなの薬局 工藤 渉 8

くすりの散歩道「まだ見ぬ美しきGardener-II」

(一財)日本医薬情報センター事務局 業務・渉外担当 小林 英夫 10

インフォメーション

第139回薬事研究会 開催案内 11

薬系大学、医学系大学4年生向けに

JAPIC「医療用・一般用医薬品集2014」検索性DVDを無償提供! 12

平成25年度下半期 学会等出展 について 13

外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より- (抜粋) 14

■図書館だよりNo.281 ■情報提供一覧 15

11

2013 | No.355

日本医薬品産業を 「ものづくり」で世界へ

協和発酵キリン株式会社 代表取締役社長
花井 陳雄 (Hanai Nobuo)



日本の製薬業界の現状

安倍内閣が本年6月に発表した成長戦略において、「医療関連産業の活性化」が掲げられ、世界最先端の医療技術・サービスを持って、国民の「健康寿命」を世界一とすることと同時に、健康・医療分野に係る産業を戦略産業として育成し、国際競争力の強化を推進していくという方針が打ち出されました。

医薬品産業界としても、こうした機会をプラスに受け止め、今後この産業をさらに成長させていくことが大きなミッションとなります。また、品質の高い医薬品を安定供給し、国民の健康にさらに資する企業活動が求められます。

一方で、日本の製薬業界は、これまでグローバル化への対応、業界再編、開発コストの増大への対応など、様々な環境変化がありました。こうした環境変化を経て、日本の製薬企業は一定の成長をしてきましたが、海外の製薬企業と比べるとその規模はまだ小さく、彼らと「伍して戦う」事は現状では難しいと思われるかもしれません。

日本の製薬企業の強み

日本の製薬企業は、それぞれが得た新たな知見から薬を開発する高い創薬力、より安全で品質の高い製品を生産性高く製造する技術を持ち、さらにそれを日々進化させるという大きな特徴を持っています。このようないわゆる「ものづくり」の技術・技能は、自動車や電機、鉄道などの、これまで国際的な競争力を誇ってきた他の産業にも共通している強みであり、歴史的にも裏付けられた日本の産業の大きな特徴と言えるでしょう。

日本の製薬企業にも、「ものづくり」のDNAは息づいており、この強みをもっと活かしていくことが、非常に重要なことです。また元来、日本の製薬企業の創薬技術は世界でも3番目に位置していることから、こうした技術を十分に活用して、世界レベルの競争力を持つ画期的な新薬開発にスピード感を持って取り組んだり、今までにない新たなビジネスモデルにチャレンジしたりすることも必要になってきます。

協和発酵キリンの現状

当社における「ものづくり」について、少し紹介します。当社は、これまでに培ってきたバイオ医薬品の分野における独自技術を駆使した新薬の開発に力をいれています。特に抗体医薬の分野ではその効果を飛躍的に高めることができる技術やマウスにヒト抗体を作成させる技術を搭載した開発品が、順調に臨床開発の段階に進んでいます。

また、当社が持つ技術を他の製薬企業にライセンスするビジネスを以前から行っているほか、大学や研究機関とパートナー契約を取り交わし、独自技術や創薬の共同研究（オープンイノベーション）にも積極的に取り組んでいます。

さらに、バイオ医薬品の製造技術を日々研鑽し、世界トップクラスの生産能力を持つべく、設備投資にも力を入れています。このような生産技術を生かして、バイオシミラー事業にも着手しています。

当社としても、このようにして、今後起こり得る様々な環境変化をビジネスチャンスと捉え、成長スピードを加速させていけるよう、取り組んでいかなければなりません。

日本の「ものづくり」文化と医薬品産業の将来

日本の製薬企業も、もちろん独自の技術をそれぞれに持ち、様々な取り組みを進めている事は、私が述べるまでもありません。特に昨年、京都大学の山中先生がノーベル賞を受賞したiPS細胞に関しては、その実用化に向けた研究開発活動が積極的に進められ、これまで有効な治療法がない疾患への挑戦が、これまでにないスピードで進められています。これはまさに日本の「ものづくり」の真骨頂を発揮する大きなチャンスだと

私は捉えています。

しかし、日本のもう一つの大きな特徴として、「ものづくり」に没頭するが故にその技術の深化に傾注し、いわば「匠」となってしまう、その技術を実用化させるための制度面の基盤づくりなど、いわゆる「仕組みづくり」についての発想がおろそかになることがあります。その結果、海外に遅れをとるようなことも経験してきました。今後はこのような独自技術の実用化に向けた仕組みづくりにも目を向け、産・学・官で連携し、業界全体で取り組んでいくことが、将来の日本の製薬業界をはじめとする産業の成長にとって必要ではないかと思っています。

私は、今後、日本の製薬企業が「ものづくり」力により、海外のメガファーマとも肩を並べるべく、様々な環境変化に対応しながら、世界中の病気と闘っている患者さんに、より多くの高品質な医薬品を届けられるようになることは実現可能だと思いますし、実現していかなければならないと考えます。



❖ JAPICサービスの紹介 ❖

■ 生物由来製品の感染症情報提供サービス

● 背景

改正薬事法（平成14年7月公布、平成15年7月施行）により、特定生物由来製品・生物由来製品に関する感染症定期報告の義務化を受け、「生物由来製品の感染症定期報告制度」に伴う情報提供サービスとして、「JAPIC-Q Plus」、「JAPIC Daily Mail Plus」、「PubMed代行検索」を実施しています。

● 感染症情報提供サービスの種類

「JAPIC-Q Plus」、「JAPIC Daily Mail Plus」、「PubMed代行検索」の概要を下記の表にまとめました。

名称	JAPIC-Q Plus	JAPIC Daily Mail Plus	PubMed代行検索
収集対象	特定生物由来製品の由来となる生物、原材料、原料又は材料による感染症、人獣共通感染症など		
情報源	当局から目安として提示された「文献・学会リスト」記載の国内発行の雑誌（23誌）および国内開催学会（21学会）	WHO、OIE、EU、各国機関（米、英、カナダ、独、豪、スウェーデン、日本など）のホームページ約50サイトからの情報およびJAPIC Daily Mailで提供した感染症関連情報	PubMed掲載雑誌（当局から目安として提示された「雑誌リスト」の範囲を含む）
提供内容	ご登録の動物種（ウシ、ブタ、ヒツジ等）ごとに検索した結果	日本語の概要、キーワード（感染症、動物種）、該当文書へのリンクなど	ご登録の動物種（ウシ、ブタ、ヒツジ等）または医薬品ごとに検索した結果および検索式
提供方法	郵送（紙媒体またはCD-ROM）	電子メール（Excelファイル）	電子メール（csv、txt、htmlファイル）
提供頻度	月1回（第1水曜日）	週1回（毎週月曜日）	月2回（第1、第3水曜日）

*収集範囲とするヒトにおける重大な感染症および人獣共通感染症は随時更新・追加しています。

●各サービスご利用のメリット

<JAPIC-Q Plus>

- ・国内発行の雑誌と国内開催学会から生物由来製品による感染症の情報を、予めご登録いただいた動物種（ウシ、ブタ、ヒツジ等）ごとに検索し、その結果を月1回提供します。
- ・情報源となる国内発行雑誌（23誌）と国内開催学会（21学会）は厚生労働省が目安として提示しているものです。
- ・動物種を登録することにより、感染症情報を定期的に入手でき、収集労力と費用の節減ができます。

<JAPIC Daily Mail Plus>

- ・有用な感染症情報が掲載される、WHO、OIE、EUや各国機関のホームページの生物由来製品・感染症関連情報をまとめて収集できます。
- ・上記のサイトに加え、JAPIC Daily Mailでお知らせする外国規制当局による医薬品等の安全性に関する措置情報からも、生物由来製品における措置情報（感染症に関するもの）を抜き出し、週1回まとめてお知らせしています。
- ・エクセルファイルでの提供となりますので、オートフィルタ機能を使用し必要な動物種での絞り込みができます。
- ・多人数でのご利用を希望される場合は、社内転送用のご登録を受け付けています。（有料）

<PubMed代行検索>

- ・PubMedに収載される膨大な論文の中から感染症分野に特定し、動物種または医薬品ごとに情報収集できます。
- ・過去4ヵ月分を遡って検索することで、検索漏れを防ぎます。

*お問合せ、ご質問等は業務・渉外担当（TEL：03-5466-1812、E-mail：gyoumu@japic.or.jp）までご連絡ください。

最近の話題

漢方とは何か？

日本漢方生薬製剤協会 広報委員長
中島 実 (Nakajima Minoru)



最近、『漢方』という言葉を目にする機会が増えていませんか？①近所のお医者さんで漢方薬を処方してもらった。②漢方医学専門の施設で治療を受けている。③漢方の本場、中国を旅行し、お土産に漢方薬を買ってきた。④健康のことを考えて漢方茶を飲んでいる。⑤この料理には20種類以上の漢方が入っている。⑥漢方に入ったお風呂で体の芯まで温まった。等々、いろいろな場面で、『漢方』という言葉が使われています。

しかし、漢方とは何か？漢方医学とは何か？漢方薬とは何か？漠然と使用している方が多いのではないのでしょうか。ここでは、漢方・漢方医学・漢方薬について解説を進めていき、最後に上記の①～⑥について、正しい表現なのか、どの部分が誤りなのかを確認してみたいと思います。

漢方（漢方医学）とは

日本の伝統医学は中国を起源とし、中国から直接あるいは朝鮮半島経由で伝来した後、独自の発展を遂げました。

その医学を『漢方』という名称で呼ぶようになったのは、江戸時代中ごろのことです。オランダ（蘭）から新しい医学が伝来し、『蘭方』と呼ばれるようになりました。そこで、従来の伝統医学にも名称が必要となり、『漢方』という言葉が使われるようになったのです。「漢」の字が使われた理由は、漢方の主な古典が漢の時代に著されたからと言われています。

このように、漢方とは本来「日本の伝統医学」を意味する言葉で、『漢方医学』とも呼ばれます。さらに、そこで使用される薬『漢方薬』についても漢方と呼ばれることが多く、その使い分けは曖昧です。

中国を起源とする伝統医学としては漢方医学の他に、中国の中医学、韓国の韓医学などがあり、漢方医学とは異なった医学体系を形成しています。また、中医学で使用される薬は「中薬」、韓医学で使用される薬は「韓薬」などと呼ばれています。これらについても、漢方とか漢方薬と呼んでいる例を見かけますが、これは誤りです。

漢方という名称は日本独自のものなので、一般の中国人に漢方と言っても意味が通じません。ただし、日本について詳しい人や、日本人相手のお土産店の人には通じ

る可能性が高いと思われます。

西洋医学との違い

現代医学において主流となっている西洋医学と、漢方医学とを比較すると、さまざまな点で異なっています。まず挙げられるのは、両者の基本的な考え方に由来する違いです。西洋医学が科学的、理論的であるのに対し、漢方医学は哲学的、経験的と言えます。また、西洋医学が分析的な手法・見方によって最終的に病巣を局所化していくのに対し、漢方医学では心身一如、つまり心と身体を総合的に捉え、全体的なバランスを整えていきます。漢方医学には、個々に異なる患者さんの病態を、心身両面から総合的に捉え治療する全人的医療の考え方が内包されており、「個の医学」と呼ばれることもあります。

薬剤に目を向けると、西洋医学で使用される薬は新薬あるいは西洋薬と呼ばれ、基本的に合成品で単一成分です。一方、漢方薬は主に植物の根や実などを簡単に加工した生薬を組み合わせて用いており、成分は複数です。多成分であるため、作用機序の解明は難しいものの、近年、作用メカニズムの解明も進んでいます。

漢方薬とその特徴

漢方薬が複数の生薬によって構成されていることについては、すでに説明しました。その組合せは、漢方理論や臨床経験にもとづいており、薬ごとに使用する生薬とその量が定められています。ただし、ごく一部の漢方薬は単独の生薬によって構成されています。

漢方薬の特徴として最も重要なのは、生薬の組合せが変わると、特定の生薬の薬効が増強されたり、適応が拡大したり、毒性が抑制されたりして、薬効が大きく変化する点です。漢方薬としての薬効は、個々の生薬の薬効の総和ではなく、構成生薬の組合せによって得られるものです。そのため漢方医学では、この生薬の組合せを一つの独立した薬物の単位として捉えています。これが漢方薬です。漢方薬を構成する生薬を指して漢方とか漢方薬と呼んでいる例をよく見かけますが、これは誤りです。

一方、起源は同じながら、中医学では個々の生薬の薬効を重視しています。患者さんそれぞれの症状を診て、必要な薬効を持つ生薬を組み合わせています。そのた

め多くの場合、使用する生薬の種類が増えるだけでなく、薬の種類も多岐にわたるため、同じ薬剤のデータを蓄積しづらいという一面があります。

民間薬との違い

漢方薬と混同されることの多いものの一つとして、民間薬を挙げることができます。民間薬は、古くから人々の間で言い伝えられ、利用されている薬草などで、ドクダミ、センブリ、ゲンノショウコなどを指します。身近で広く知られているものも少なくありませんが、漢方薬と民間薬はさまざまな点で異なります。多くの民間薬は、単一の薬草で構成されています。民間薬は室町期には知られており、江戸期には徳川光圀公の命によりまとめられた救急療法の手帳『救民妙薬』（1693年）などがあり、民間の経験が伝承されてきました。一方、漢方薬は、前述したとおり、古代中国の医学体系に基づく医書に記載された医学理論に裏付けられており、通常複数の生薬の組み合わせで構成されています。

副作用について

「漢方薬には副作用がない」という話をよく耳にしますが、これは誤解です。漢方薬は医薬品であり、副作用もあります。さらに、症状や体質などに合っていない薬を服用したり、合っている薬でも大量に服用すると、予期せぬ症状が起きる可能性もあります。用法・用量を厳守するとともに、医師や薬剤師の指導を受ける必要があります。

医療現場での使用状況

医療の現場における漢方薬の使用状況を見ますと、現在、その多くはエキス剤が使用されています。「煎じる必要がない」「携帯しやすい」「旅行先での服用も楽」「保存が容易」など、患者さんにとってのメリットだけでなく、品質が均一な剤剤が多くの人に使用されるため、大量のデータを蓄積することが可能となり、科学的根拠（エビデンス）の解明にもつながっています。

漢方薬の使用実態について日本漢方生薬製剤協会が2011年に行った調査では、89.0%の医師が「現在の治療において医療用漢方製剤を使用している」と回答しており、2008年の調査に比べ5.5ポイント増加しています。漢方薬の使用動機に関しては、「西洋薬による治療で効果がなかった症例で漢方治療により効果が認められた」「患者さまからの要望があった」「エビデンスが学会などで報告された」「西洋薬だけによる治療に限界を感じた」などが挙げられます。「患者さまのQOL（生活の

質）を高め、全人的医療ができる」という観点から漢方薬を評価する医師もいます。

また近年、疾病構造の変化は著しく、西洋医学だけでは治療が困難なケースもあり、漢方医学への期待がますます高まっています。

漢方医学の教育と臨床

漢方医学の教育も充実してきています。2004年度には、全国80の大学医学部・医科大学すべてにおいて漢方医学の講義が導入されました。現在、そのうちの78大学では必修科目として8コマ以上の講義が行われています。漢方外来は79の大学病院に開設され、また、漢方医学教育の学内教官育成に対する取り組みも79大学で実施されているなど、漢方医学に対する理解は急速に広がっており、漢方医学教育の内容がさらに拡充されることが期待されています。

最後に、冒頭の①～⑥について、正しいのか、どこが誤りなのかを順番に確認してみましょう。

①と②に誤りはありません。医師の約9割が漢方薬を使用し、ほぼ全ての大学病院に漢方外来が開設されている時代背景を考えれば、当然のことでしょう。③は誤りです。漢方の本場は中国ではなく日本です。また、中国で購入したお土産も、漢方薬ではなく中国の医薬品（中薬）でしょう。④も誤りです。民間薬の中には〇〇茶という健康茶は存在しますが、医薬品である漢方薬の中に漢方茶は存在しません。民間薬と漢方薬を混同しているものと思われる。意図的に漢方という言葉を使用しているとすれば、不適切な表現と言えます。⑤も誤りです。漢方薬を料理に使用することは可能ですが、20種類以上も入れることは考えにくく、ここで使用されている漢方とは、漢方薬の原料である生薬と思われます。⑥も誤りでしょう。漢方薬をお風呂に入れることは不可能ではありませんが、服用と同様の効果は期待できません。この場合も⑤と同じように生薬のことを誤って漢方と表現しているものと思われます。

このごろ新聞や雑誌などでもよく取り上げられる『漢方』。漢方医学の現状を詳細に解説した特集もあり、漢方が最先端の医療の現場で必要とされていることが、お分かりいただけると思います。しかし、ここで取り上げたような誤解がまだあることも事実です。このコラムをお読みいただき、漢方をご理解いただければ幸いです。

薬剤師の現場

情報化社会における かかりつけ薬局の役割

株式会社健康第一調剤薬局 みんなの薬局
工藤 渉 (Kudo Wataru)



昨今、インターネット、そしてスマートフォンやタブレット端末の普及によって誰もが医薬品の成分、効能、副作用などの情報を手軽に検索し、入手できるようになりました。しかし、その情報量は膨大すぎて、医療従事者ならばともかく、一般の方々がその情報の取捨選択をすることはとても難しいように思います。

私は大学卒業後、今の会社に入るまで1年半ほどドラッグストアに勤めており、その間に3-4店舗を渡り歩きました。いわゆる調剤併設型の店舗もあり、保険調剤と全く隔絶していたわけではなかったのですが、OTC販売に関わっていた時間が大半を占めました。尋ねられることはそれぞれ千差万別でしたが、特に若い方では、セルフメディケーションの機運もあってか、軽い風邪や頭痛などの症状では市販薬で対処しようとするのが多く、一方で年配の方は昔からの常用薬や、こだわりを持つ健康食品がある場合が少なくありませんでした。

この期間に得た情報は、その会社に在籍している間はもちろんのこと、今、調剤薬局の薬剤師として患者さんに接する上でも役に立っています。服薬指導の際にOTC併用薬や健康食品についても確認を取りますが、聞き取った薬・食品と処方薬との飲み合わせについて、その場で的確にアドバイスできることは、患者さんの信頼を得る上でも有益だと思うのです。

先日、ある患者さんに『このところ、おなかの調子わるくって。市販の〇〇っていう整腸剤を飲んでみようと思ったんだけど、私、ワファリン飲んでるでしょ。ネットで調べてみたら一緒に飲んじゃ

いけないことになってるんだけど、本当かしら?』

と相談を受けたことがありました。詳しく話を聞くとワファリンを飲むに当たり回避すべき食品をいろいろ指導されていたため、その整腸剤についても気になってご自身でインターネットで調べてみたところ、飲み合わせがよくないとする記事を見つけ、不安なので飲んで大丈夫か教えてほしい、とのことでした。

そのOTC整腸薬そのものにはビタミンKが含まれていないものの、納豆菌が含まれており、腸内でビタミンKを産生してワファリンの作用を減弱させてしまうため、併用は避けるべき、と説明し、納得いただけたようでしたが、整腸剤にもそうした相互作用があることに驚かれています。

数年前に登録販売者の制度がスタートして、OTC販売の異業種参入が活発になりました。最近では医療用医薬品のスイッチOTC化が推し進められており、また、インターネットでの市販薬販売が議論され、話題となっています。その行方はまだ明確ではありませんが、今後、一般の方々が薬を手に入れる手段、触れる機会、そして手に取れる薬の種類はますます増えていくものと思われます。

反面、利便性が安全性よりも優先されてしまう風潮を危惧する声もあります。インターネット上には情報が溢れ、注意すべき副作用、相互作用に対する認識がないまま服用に至ってしまったり、逆に羅列された副作用症状に過剰な不安を覚えてしまうことも考えられます。こうした人々の手助けこそ、地域社会に根ざした薬局がこれから担うべき役目です。

処方された薬剤については、的確な服薬指導・情報提

供によってコンプライアンス、アドヒアランスの向上に努めるのが薬局薬剤師の当然の責務ですが、インターネットが使用できないような高齢者や、また情報が得られてもその情報が自分自身にとってはどうなのか、を知ることができない患者さんが数多くいます。そうした方達と間近に接する我々薬局薬剤師は、的確な情報の選択・提供によって疑問や不安を解決することでより身近な存在として役立つものと思います。

私が所属しております株式会社 健康第一調剤薬局は、1982年の設立以来、静岡、愛知、岐阜の3県に事業所を展

開し、医療・介護の両面から地域の方々を支えています。

若いスタッフからベテランまでがそれぞれに力を発揮して各薬局での業務にあたっており、外部講師を招いての勉強会のほか、金城学院大学においてスキルアップのための研修会を行うなど、生涯学習の体制も整っています。

また、名城大学との共同研究も行っており、昨年は『調剤薬局における手指衛生向上に向けた取り組み』と題し、日薬学術大会において口頭発表を行うに至りました。

これからも日々の研鑽に努め、患者さんから信頼される『かかりつけ薬局』として、地域医療に貢献していきたいと思っています。



くすりの散歩道

NO.73

まだ見ぬ美しきGardener-II

(一財)日本医薬情報センター事務局 業務・渉外担当
小林 英夫 (Kobayashi Hideo)

だいぶ古い話になりますがJAPIC会員企業に在職中JAPIC NEWS (2008年5月号)の巻頭言に『まだ見ぬ美しきGardener』と題した雑文を寄稿させていただきました。

その内容を要約しますと「営業現場を離れ本社デスクワークとなった私は、運動不足を解消するために休日、近隣を散歩(徘徊)し、家々の庭先の緑に季節を感じながら借景を楽しみ歩くことを週末の日課としていた。そうした中、枝の広がりや空間のバランスを意識した剪定、季節の色や香りを感じさせる絶妙な草花の配置による植栽、隅々まで行き届いた手入れ、そんな庭に出合い感動を覚え、その庭を経由するコースが散歩のルートになっていった。庭への感動は庭そのものよりも作り手『美しきGardener』は誰なのか、まだ見ぬ人へのあこがれに変わり、いつの日か自分もこのような庭を作りたいとの思いに昇華していった。そんな思いはいくつかの困難を克服し今住んでいるマンションの近隣にガーデニングのための土地と小屋を手に入れ現実のものとなった。そして私なりの庭づくりの思いをスタートさせた。」という取りとめのない内容であったかと思えます。

それから5年が経過しGardenは薔薇を主体として季節の草花を脇に配し、5月にはつる薔薇が小屋やアーチ、フェンスを蔽い木立の薔薇も一斉に甘い香りを漂わせてくれます。脇役の草花は開花期、色、大きさ等を考え配置し、薔薇の咲かない季節は主役として、薔薇の開花時は脇役として華やかさを増幅してくれます。

この度『くすりの散歩道』に投稿させていただくに当たり薔薇の歴史や私の庭の草花について色・形だけではなく成分等についても調べてみました。

薔薇が観賞用として栽培されたのはローマ帝国初期であると言われる。特に5代皇帝ネロは薔薇狂いで有名であった。中世に入るとキリスト教の禁欲的道德観によって一般の人々の栽培は禁止され停滞したが、19世紀ルネサンスによって薔薇栽培が飛躍的に発展した。

時代を遡って薔薇が人類の歴史に登場するのは紀元前5000年メソポタミア文明とされる。そしてエジプトの女王クレオパトラは薔薇好きで有名で当時の薔薇は主に香油・薬用として栽培されていた。

話は変わるが、家々の庭で栽培される草花について調べるにつれ、それらには薬効成分、毒性成分を含むものが意外に多いことに気づかされる。

私の庭づくり5年間に植えたことがあり、また自然に芽吹いた草花で薬効や毒性のあるものを紹介する。これらの誤食によりしばしば中毒を起こすことが知られている。

オモト、クリスマスローズ、スズラン、ジキタリス、フクジュソウは強心配糖体を含み薬効・毒性はかなり強い。ジキタリスはコンフリーとフクジュソウはフキノトウと誤食されスイセンはコリンを含みニラと誤食されることがしばしば報告されている。ニチニチソウは抗悪性腫瘍薬のピンクリスチンをツルニチソウは有毒アルカロイドを含みどちらも毒性が非常に強い。

毒性と言うよりも穏やかな薬効を持つものとして緩下剤としてのアサガオ、鎮咳剤としてのナンテン、去痰剤としてのキキョウなどがあげられる。

また我が家では春から夏にかけてプランタに植えられたナスタチウムの花がサラダの彩として供され、食卓にプラスαの華やかさを醸し出してくれる。

今回、投稿に当たり庭の草花の特性を調べる機会を頂き、作り手としての新たな思いをこめて育てることできるのではないかと考えている。

最後に、その後『まだ見ぬ美しきGardener』の庭で垣間見た作り手の手は、心ときめく白魚のようではなく、節くれた大きな手であったことを報告させていただきます。

<参考資料>

薬用植物図鑑 e-Encyclopedia

蓬田バラの香り研究所：バラの歴史



第139回薬事研究会 開催案内

薬事研究会を下記により開催致します。

本年4月より「医薬品リスク管理計画(RMP)」が施行されました。今後の国会で薬事法改正案が継続審議される予定です。薬事研究会では今回、厚生労働省の方に、我が国における医薬品の安全対策、および薬事監視指導の最近の動向についてご講演いただきます。多数ご参加いただきますようご案内申し上げます。

■ 日 時 : 平成25年12月2日(月) 14:00~16:45

■ 場 所 : 日本薬学会長井記念ホール (東京都渋谷区渋谷2-12-15)

■ プログラム

14:00~14:05 主催者挨拶

14:05~15:20 「最近の医薬品安全対策の動向について」(仮題)

厚生労働省医薬食品局安全対策課課長補佐 黒羽 真吾先生

15:20~15:30 休憩

15:30~16:45 「最近の薬事監視指導の動向について」(仮題)

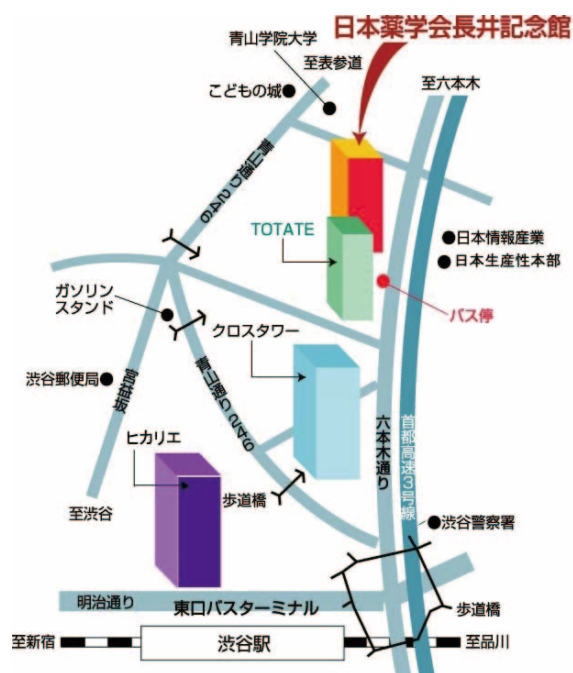
厚生労働省医薬食品局監視指導・麻薬対策課課長補佐 柴辻 正喜先生

*諸事情により講師、時間等一部変更する場合がありますので、予めご了承下さい

■ 参 加 費 : 3,000円 *当日会場でございます(JAPIC会員企業・機関にご所属の方は無料。)

■ 申 込 方 法 : JAPICホームページ講演会・ユーザ会入力フォームからお申込下さい
(先着200名 定員になり次第締切となります。)

■ お問合せ先 : 事務局 業務渉外担当 (TEL:0120-181-276)



◆ 鉄道:

JR山手線、東急東横線、東急田園都市線、京王井の頭線、東京メトロ銀座線・半蔵門線・副都心線の渋谷駅下車

◆ 徒歩:

JR渋谷駅東口より、高樹町方面へ高速道路3号線沿いに8分

◆ 都バス:

JR渋谷駅東口、「学03日赤医療センター行き」1つ目「渋谷3丁目」下車すぐ

◆ くるま:

高速道路3号線高樹町出口より800m先右側
高速道路3号線渋谷出口より30m先左側

薬系大学、医学系大学4年生向けに

JAPIC「医療用・一般用医薬品集2014」検索用DVDを無償提供！

JAPIC会員サービス及び教育支援の一助として、本年度も10月末に検索用(非インストール版)DVDを無償提供しました。毎年JAPIC会員の薬系大学、及び医学系大学4年生向けにDVDご利用の希望数を伺っておりますが、本年度は薬学系大学約50機関から9,500枚を超える数の回答が寄せられ10月末に送付いたしました。また全国の医学系大学にも同様の調査を行い約80大学から回答をいただき7,700枚以上のDVDを送付しました。

本事業は3月発行の「日本の医薬品構造式集」の無償提供と合わせ毎年実施しており、本年で9年目となります。「日本の医薬品構造式集」はJAPIC会員の薬系大学の新1年生向けに本年3月には11,500冊を無償提供いたしました。

医療現場において次世代を担う学生への教育支援を公益事業の一環として実施しておりますが、教育現場で広く有効に利用されているとのご報告をいただいております。このような事業を継続できますのもJAPIC会員の皆様のご支援の賜物と感謝しております。



Windows版
検索用(非インストール版)DVD

収録内容

- ・医療用医薬品集 ・一般用医薬品集
- ・薬剤識別コード一覧 ・薬価情報
- ・後発品の全情報 ・添加物情報
- ・医療用医薬品の最新添付文書画像(PDF)の表示機能付き

(無料:要インターネット接続。PDFは毎週更新)

- * (検索用(非インストール版)DVDは8,000円(税込)で別途販売しております。)
- * (インストール版CD-ROMは15,000円(税込)で別途販売しております。)



日本の医薬品構造式集

医薬品の安定性、溶解性などの化学的特性、薬効・薬理が示唆され容易に類似化合物の類推ができる、構造式約1,300成分を一覧化。薬剤師はじめ化学、薬学領域の学生研究者にとって不可欠な内容です。

平成25年度下半期 学会等出展 について

平成25年度 下半期 (10月～平成26年3月) は下記学会に出展いたします。

大会名	期間	開催地
第52回日本薬学会・日本薬剤師会・ 日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会	平成25年10月26日～10月27日	松山大学
第15回図書館総合展	平成25年10月29日～10月31日	パシフィコ横浜
第19回日本薬剤疫学学会学術総会	平成25年11月16日～11月17日	東京大学伊藤国際学術研究センター
第33回医療情報学連合大会	平成25年11月21日～11月23日	神戸ファッションマート
第35回日本病院薬剤師会近畿学術大会	平成26年2月1日～2月2日	国立京都国際会館
第134年会日本薬学会	平成26年3月27日～3月30日	熊本大学

展示内容としては、下記のを予定しております。

医薬品と対応病名検索システム (病名ナビ)

医療用医薬品添付文書の「効能効果」に対応する「標準病名」を関連付け、相互に検索するものです。処方薬に対応するICD10対応電子カルテ用標準病名の選択や、レセプトの病名チェック等にご利用いただけます。

院内採用医薬品集作成システム JAPIC PIA

院内採用医薬品集を病院内で、低コスト、MS-wordで簡単に作成できます。また、院内LAN上での採用薬添付文書情報の閲覧・持参薬から同一成分薬の検索が可能です。

JADER解析サービス

医薬品医療機器総合機構 (PMDA) の医薬品医療機器情報提供ホームページから公開されている「副作用が疑われる症例報告に関する情報」データをもとに、ご要望に応じた調査・解析等を行い、結果を提供するサービスです。

その他にも、赤ジャビの名で親しまれているJAPIC医療用医薬品集を始めとした出版物や、どなたでもご利用いただける医薬品情報データベース (iyakuSearch) などJAPICが提供しているサービスのご紹介をさせていただきます。

お出かけの際は是非お立ち寄りください。

外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より – (抜粋)

2013年9月2日～9月30日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.418-422)の記事から抜粋

■米FDA

- 米FDA、徐放性および長時間作用型opioid鎮痛剤の安全性に関する表示改訂および市販後研究を要求したことを発表；新たな枠組み警告として新生児opioid離脱症候群 (NOWS) を追加
<<http://www.fda.gov/NewsEvents/Newsroom/PressAnnouncements/ucm367726.htm>>
- Arzerra (ofatumumab) およびRituxan (rituximab) のDrug Safety Communication: 新たな枠組み警告、B型肝炎の再活性化リスクを低下させるための勧告事項について
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm369846.htm>>
- Drug Safety Communication: Tygacil (tigecycline) ; 死亡リスクの増加について
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm370170.htm>>

■Health Canada

- Sutent (sunitinib malate) : 重度皮膚反応症例について; 製品モニタリングの重要な改訂、ステイブンス・ジョンソン症候群 (SJS) および中毒性表皮壊死融解症 (TEN) を示唆する重度皮膚反応が関連する可能性
<<http://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2013/35473a-eng.php>>

■EU・EMA

- 短時間作用型βアゴニストのArticle 31 referral: PRACは産科的適応(早産抑制または過剰な分娩収縮など)における短時間作用型βアゴニストの使用制限を勧告; 経口または坐剤製剤で使用しないことについて
<http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Referrals_document/Short-acting_beta-agonists/Recommendation_provided_by_Pharmacovigilance_Risk_Assessment_Committee/WC500148669.pdf>

■独BfArM

- Clopidogrelに関する重要な情報: 後天性血友病のリスクについて
<<http://www.bfarm.de/DE/Pharmakovigilanz/risikoinfo/2013/info-clopidogrel.html>>
- risperidoneまたはpaliperidoneのRote-Hand-Brief: 術中虹彩緊張低下症候群 (IFIS) リスクについて
<<http://www.bfarm.de/DE/Pharmakovigilanz/risikoinfo/2013/rhb-risperdal-paliperidon.html>>
- Lariam (mefloquine) のRote-Hand-Brief: 神経精神学的副作用とその他の重篤な副作用のリスクおよび新たな禁忌(黒水熱、重度肝障害)について
<<http://www.bfarm.de/DE/Pharmakovigilanz/risikoinfo/2013/rhb-lariam.html>>
- allopurinol含有医薬品: 重度皮膚反応リスクの増加に関して製品情報を改訂する必要性、文章の調整について
<<http://www.bfarm.de/DE/Pharmakovigilanz/risikoinfo/textanp/TA-allopurinol.html>>

■仏ANSM

- filgrastim (Neupogen) およびpegfilgrastim (Neulasta) : 癌患者および健康なドナーにおける毛細血管漏出症候群のリスクについて; 医療専門家向けレター
<<http://ansm.sante.fr/S-informer/Actualite/Filgrastim-Neupogen-R-et-Pegfilgrastim-Neulasta-R-risque-de-syndrome-de-fuite-capillaire-chez-les-patients-atteints-d-un-cancer-et-chez-les-donneurs-sains-Lettre-aux-professionnels-de-sante>>
- Vectibix (panitumumab) : RAS遺伝子の変異ステータスに関する新たな勧告事項: 医療専門家向けレター
<<http://ansm.sante.fr/S-informer/Actualite/Vectibix-panitumumab-nouvelle-recommandation-concernant-le-statut-mutationnel-RAS-Lettre-aux-professionnels-de-sante>>
- dihydroergotamine, dihydroergocristine, dihydroergocryptine/caffeine, nicergolineを含有する経口製剤の製造販売承認停止について: 医療専門家向けレター; 有効性は限られており、ベネフィットはリスクを上回らないことなどについて
<<http://www.ansm.sante.fr/S-informer/Informations-de-securite-Lettres-aux-professionnels-de-sante/Suspension-d-AMM-des-medicaments-par-voie-orale-contenant-dihydroergotamine-dihydroergocristine-dihydroergocryptine-caffeine-nicergoline-Lettre-aux-professionnels-de-sante>>

■豪TGA

- apixaban (Eliquis), dabigatran (Pradaxa), rivaroxaban (Xarelto) : 安全性に関する注意喚起-出血のリスク因子
<<http://www.tga.gov.au/safety/alerts-medicine-apixaban-hp-130924.htm>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報(海外)担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介: <<http://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供を御希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

【新着資料案内 平成25年9月1日～平成25年9月30日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

〈配列は書名のアルファベット順、五十音順〉

書名	著編者	出版者	出版年月
British National Formulary No.66	Rachel S.M. Ryan	BMJ Publishing Group	2013年
British Pharmacopoeia 2014	UBM Medica	UBM Medica Spain, S.A	2013年2月
Vademecum Internacional 13	Sir Alasdair Breckenridge	The Stationery Office	2013年7月
科学・分析機器総覧 2013	日本科学機器協会, 日本分析機器工業会 編	日本科学機器協会	2013年9月
緩和ケアチーム活動の手引き 第2版	日本緩和医療学会専門的・横断的緩和ケア推進委員会	日本緩和医療学会	2013年6月
抗菌薬適正使用生涯教育テキスト 改訂版	日本科学療法学会抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会 編	日本化学療法学会	2013年8月
周産期学シンポジウム抄録集 No.31		メジカルビュー社	2013年9月
新 一般用漢方処方の手引き	日本漢方生薬製剤協会 編	じほう	2013年9月
第56回日本形成外科学会総会・学術集会 シンポジウム、ミニシンポジウム レポート集		日本形成外科学会	2013年9月
日本医薬品卸企業名簿 平成25年度版		日本医薬品卸業連合会	2013年9月
日本医薬品集 一般薬 2014-15	DRUGS IN JAPAN日本医薬品集フォーラム 監修	じほう	2013年9月

情報提供一覧

【平成25年10月1日～10月31日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free	http://database.japic.or.jp/
1. [JAPIC Pharma Report-海外医薬情報]	10月4日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. [添付文書入手一覧] 2013年9月分 (HP定期更新情報掲載)	10月1日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. [JAPIC NEWS] No.355 11月号	10月31日	3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
4. [JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版 (CD-ROM)]	10月31日	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
5. [JAPIC OTC医薬品CD-ROM]	10月31日	5. 臨床試験情報	随 時
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (FAX、郵送、電子メール等で提供)		6. 日本の新薬	随 時
1. [JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報] No.901-905 (旧: 医薬関連情報速報FAXサービス)	毎 週	7. 学会開催情報	月 2 回
2. [医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)]	毎 週	8. 医薬品類似名称検索	随 時
3. [JAPIC-Q Plusサービス]	毎月第一水曜日	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
4. [外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)] No.3014-3035	毎 日	〈iyakuSearchPlus〉	http://database.japic.or.jp/nw/index
5. [JAPIC Weekly News] No.421-425	毎週木曜日	1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
6. [Regulations View Web版] No.272-273	10月11日・25日	2. 学会演題情報プラス	月 1 回
7. [感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)] No.512-515	毎週月曜日	3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日
8. [PubMed代行検索サービス]	毎月第一・三水曜日	4. Regulations View DB (要:ID/PW)	月 2 回
9. [JAPIC医療用医薬品集2014] 更新情報2013年10月版	10月31日	外部機関から提供しているJAPICデータベース	
		〈JIP e-infoStreamから提供〉	https://e-infostream.com/
		〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉	http://jdream3.com

JAPIC

医療用医薬品集2014

〈検索用DVD付〉



- ◆2013年6月後発品まで収録
- ◆約40年の編集実績による信頼と使いやすさ
- ◆国内流通全医薬品の最新情報に基づき作成
- ◆検索用DVD(非インストール版)付
(DVD単体8,000円(税込)で別途販売しております。)
- ◆便利な「薬剤識別コード一覧」
(冊子。別売2,940円 税込)の無料請求葉書付
- ◆類似薬選定のための「薬効別薬剤分類表」を収録
- ◆更新情報メールの無料提供(要登録)

好評発売中!!

B5判 約3,500頁 / 13,650円(税込)

■検索用(非インストール版) DVD Windows版 とは

◆収録内容

- 医療用医薬品集
- 一般用医薬品集
- 薬剤識別コード一覧
- 薬価情報
- 後発品の全情報
- 添加物情報
- 最新添付文書画像(PDF)の表示機能付
(無料・要インターネット接続。PDFは毎週更新)

定価: 8,000円(税込)

※インストール版(CD-ROM)は15,000円(税込)で別途販売しております。

JAPIC

一般用医薬品集2014

- ◆リスク区分(第1類~第3類医薬品)をわかりやすく表記。
- ◆最新の一般用医薬品添付文書を日本製薬団体連合会の委託を受け収集。
- ◆国内流通医薬品をほぼ網羅する12,000製品を収録。
- ◆個々の製品について製造・販売会社、組成、添加物、適応、用法、リスク区分を記載。
- ◆付録には、リスク区分情報、ブランド名別成分比較表、国内副作用報告の状況、重篤副作用疾患別対応マニュアル等を収録。

好評発売中!!

B5判 約2,000頁 / 9,450円(税込)



一般財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC** 編集・発行 TEL 0120-181-276
丸善出版株式会社 発売 TEL 03-3512-3256

上記書籍の他、電子カルテやオーダリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。

Garden

ガーデン

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

ちゃ

茶は最澄がはじめて持ち帰り、また、栄西がお茶として栽培を広めたという。このごろ、カテキン類が健康によいということだが、健康食品でも「お茶」に限ってはあまり悪いところはなさそうである。花は10-11月ごろに咲く。花をよくみると椿(つばき属)と近縁(ちゃ属)であると納得する。(ks)



JAPICホームページより
<http://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。